



レオパレス21ミャンマーオープン 第1ラウンド戦評

晴天の中、ミャンマー/ヤンゴン郊外のパンラインゴルフクラブで
今年のレオパレス21ミャンマーオープン2017が開幕した。

アジアツアーとジャパングolfツアーの共同主管で行われる
この大会にはツアープレーヤー145名、アマチュア5名の全150名が参加。
優勝賞金13万5000ドルをかけて熱き戦いがスタートした。

この日の初日のラウンドが行われトップに立ったのは、トータル6アンダーで回った
フィリピンのアンジェロ・キューと日本の矢野東(やの あずま)の2人。

矢野は8バーディ2ボギーのゴルフで初日から6アンダーと好スコアをマークした。
10番からスタートした矢野は前半のあがり4ホールとなる15番から18番まで
4連続バーディを奪うなど、好調なゴルフで初日にトップに躍り出た。

昨年不本意なシーズンを送ったと自ら語る矢野は「先週予選落ちしているので、
2週連続はイヤだと思っていた。今日は先週からの調整ポイントがうまくこなせていた。
そのあたり、いいときの自分をイメージしながら今日はプレー出来ていましたね。
先週いろいろミスあったけど、今日はその辺うまく行けました。」と話し、
復調したゴルフに十分満足した様子だった。

今日は長いパットが良く入ったという矢野。

「グリーンを読みきることは難しい。中途半端なパットは後悔するんで、入っても入らなくても決め打ちして、しっかり打っていったのが良かった。」と会心のプレーを振り返っていた。

「明日も変わらず。グリーンが堅くて、ピンに行ったりすると、そのままこぼれちゃったりするんで、あまり欲をかかずに残り3日間やりたいですね。」と、控えめながらも内に秘めた闘志をみなぎらせていた。

明日まで予選ラウンドが行われ、上位65位タイまでの選手が土曜日からの決勝ラウンドに進出できる。明日からの熱戦にも期待される。

